

米側と意思通じた

国際リニアコライダー（ILC）の国内誘致を目指すリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟のメンバー3人は11日から3日間の米ワシントン訪問を終え帰国した。初開催された日米先端科学技術フォーラムの継続方針を米議員有志と確認したほか、政府関係者や有力な研究者らとも交流した。議連幹事長の塩谷立衆院議員（静岡8区）に訪米の総括と今後の展開を聞いた。

（聞き手は報道部・熊谷宏彰）

塩谷議連幹事長に聞く

「科学技術や日米関係の分野でトップクラスで、関心のある米議員らとあるほか、世界の多くの意思疎通を図った。手応えを聞かせてほしい。」



次は日本でフォーラムを

「日本は素粒子物理学（素粒子物理学）な協議をどう進めるか。特に日米協力が大事だ。過去3回、毎年訪米し、対話を重ねてきた。今回は議員のフォーラムを設置し、それを継続的に取り組みながら実現に



「米側と互いの意思は通じた。次は日本でフォーラムを開きたい」と訪米の成果を語る塩谷立氏（ワシントン市内）

向けて話を進めたいとの議会の都合で議員は来られなかったが、その前後には議員数人と会い、わ

れわれの意思を伝え、相手を納得させた。多面でも意義は大きいと手側からも賛同する話があった。そういう点では互いの意思が通じ、結果は出せた。」

「米側は手順として、具体的なILCをどう運営するのか、おまの予算規模はどれくらいか、米国が担うべき役割は何か、そういう提案を欲しがっている。日本政府はスタートさせることを仮定し、現段階である程度の計画を提示すべきだとの話をした。エネルギー省も賛同し、話し合いを継続するということをお

「私も今後文科省にしっかりと話し、米政府が本案を見ながら検討する度には日本でもフォーラムを開く方向に進めたい。」

「建設候補地、北上山所（大型円形加速器）HICでいろいろな技術研究を重ね、その結果も2年後くらいには出る。技術が高まればコストも安くなる可能性もある。その時は（計画を）変更すればいい。」

「米国の研究者や専門家からも、さまざまに重要な場面に日本誘致への期待感がない。」

「米側は相互にILCに対して前向きだとの手応えを得た。科学技術や産業発展、安全保障など」